

4.1.1.3 環境保全措置の検討

(1) 環境保全措置の検討項目

環境保全措置の検討は、予測結果を踏まえて、環境影響がない又は小さいと判断される場合以外に行う。

表 4.1.1-16 に示すように、予測の結果から、工事の実施に伴う降下ばいじんの影響は小さいと判断されることから、環境保全措置の検討を行う項目はない。

表 4.1.1-16 環境保全措置の検討項目

項目	予測結果の概要	環境保全措置の検討
		工事の実施
粉じん等	工事の実施に伴う降下ばいじんの寄与量は、工事に係る降下ばいじんの寄与量の参考値 10t/km ² /月を下回ると予測されることから、影響は小さいと考えられる。	-

注)1. - :影響がない又は小さいと判断されるため、環境保全措置の検討を行わない。

2.工事に係る降下ばいじんの寄与量の参考値については、「4.1.1.2 予測の結果 2) 予測結果」に示す。

(2) 配慮事項

以下に示す内容については、工事の実施における配慮事項として、影響の程度に関わらず、継続して実施する。

- ・定期的に散水する。
- ・工事用車両のタイヤを洗浄する。
- ・裸地の早期緑化を行う。
- ・建設機械の複合同時稼働・高負荷稼働を回避する。

4.1.1.4 評価の結果

大気質については、粉じん等について調査、予測を実施した。その結果、建設機械の稼働に係る降下ばいじんの寄与量の予測結果は、工事に係る降下ばいじんの寄与量の参考値を下回ると予測される。これにより、粉じん等に係る環境影響が事業者の実行可能な範囲内でできる限り回避・低減されていると判断する。

【引用・参考文献】

- 1) 地上気象観測指針(気象庁 平成 14 年 3 月 財団法人日本気象協会)
- 2) ダム事業における環境影響評価の考え方(河川事業環境影響評価研究会 平成 12 年 3 月)
- 3) 道路環境影響評価の技術手法 第 2 巻(財団法人道路環境研究所 平成 12 年 11 月)
- 4) “建設工事に伴う粉じん等の予測・評価手法について” 土木技術資料第 42 巻第 1 号(朝倉義博・村松敏光 建設省土木研究所 平成 12 年 1 月 財団法人土木研究センター)
- 5) 浮遊粒子状物質による環境汚染の環境基準に関する専門委員会報告(生活環境審議会 公害部会 浮遊粉じん環境基準専門委員会 昭和 45 年 12 月)